

社会浄化をめざす ● せろん じほう

# 世論時報

平成28年

# 4

昭和43年8月23日第三種郵便物認可  
平成28年4月1日発行毎月1回1日発行  
第49巻第4号(通刊779号)

## 特集 みんなで育てる「赤ちゃん」

●日本の今

世界トップクラスの食品廃棄物量

●新体操教室の子ども達

保護者とのトラブルに反省

東光西風

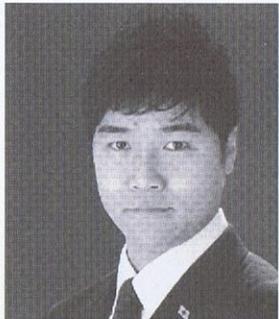
スポーツ文化育成に水を差すプロ野球界

そこがおかしい日本語

「とんでもおへん」は  
打ち消し語？

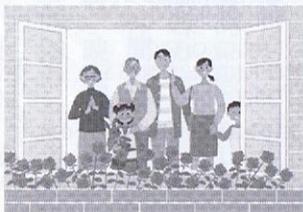


# 歴史を学ばずして政治は始められない



## 鈴木 誠

1982年生まれ。小学生の頃より歴史に興味を持ち、以後、中学・高校時代は歴史書三昧の日々。法政大学経済学部国際経済学科卒業。2005年(株)リクルートメディアコミュニケーションズ(現リクルートコミュニケーションズ)入社。2011年東京都稲城市議会議員選挙に完全無所属で立候補。稲城市過去最年少の28歳で初当選、新人だけの「起風会」を結成。稲城市青年会議所第41代理事長、稲城市消防団第六分団班長。



### 一回限りの人生を政治に賭けてみることに

——まず政治家を志した経緯を教えてください。

**鈴木** 私は元々歴史が好きで、大学では国際経済を専攻していましたが、国際(国と国の際(きわ))を理解するには、さらに自国を深く知る必要があると考え、無理をお願いして日本史ゼミに入れてもらい、平安期から鎌倉期に掛けての多摩地方における武士団の成立を研究しました。

歴史というのは、それまでの流れがあつて、その流れを受けて今の動きが生じ、今の動きが次に繋がって

行くものです。今の日本が停滞か、下り坂なのであれば、この問題は誰かに任せておくのではなくて、今を生きる我々が行動せねばならないのだ! という想いは持っていました。

——学生の時から、漠然とした政治への関心があつたわけですね。

**鈴木** 大学卒業直後は活字好きが高じて文章を作る仕事に就きたいと思ひ、出版社の制作職に。若輩でしたが住宅情報誌(現SUMO)プロジェクトのリーダーを拝命しました。その過程で、人口動向調査の機会があり、少子高齢化から消滅社会への現実を突きつけられ、自分の使

命は何かと真剣に再考させられました。

そのまま社勤めをしていたほうが生活は楽であることは分かっていたのですが、一回限りの人生、思い切つて政治に賭けてみようと思ひ、当然、家族や親族からは反対もありましたが、「命の使い道」を説いて、納得してもらいました。

——実際政治家になり、結果を出したと思える具体例を教えてください。

**鈴木** 稲城市は人口減少社会では稀有な人口増加自治体です。私は、その優位性がある内に、住民が骨を埋める価値を認め、子や孫が「私もこ

の街が好き、この街で暮らしたい」と再定住を選択する「世代循環型モデルの街」の確立を目指しています。

そのためには街全体の価値を上げる必要があります。市内には消防署が1カ所のみで不安視されていますが消防出張所(分署)を建設、来春開所する段取りができました。

こうした防災から福祉、教育、インフラ整備等々あらゆる面でのポトムアップが任務ですが、議会では指摘するだけでなく、日々皆様と共に実践しながら提案を続けています。

また、当市は30〜40代世代に大きな支持を得ている「機動戦士ガンダム」のメカニックデザイナーである大河原邦男先生の出身地で、今月には二体のミニチュメントが設置、お披露目される運びとなりました。

これは余談ですが、こうした観光・知名度向上施策にも肩入れしているのは、会社員時代の深夜、東京駅からタクシーに乗り「稲城まで」と言ったら、危うく「稲毛(千葉)」に連れて行かれそうになった悔しさも原因の一つかもしれません(笑)。

### 自分自身を知らなければ相手と議論などできない

——歴史を学ぶことで、政治活動に役立つことはありますか?

**鈴木** 「国語の能力」と「歴史の能力」は政治家には最低限必須の能力だと思ひます。言葉を練り上げて相手に伝える、相手が言っていることを正しく理解するのは国語力です。そして、物事の経緯や背景を知る、過去の失敗を繰り返さないための歴史力も必要と言えるでしょう。

孫氏の兵法書に「彼を知り己を知れば百戦殆(た)からず」とありますが、自分を知らない、相手との差も見極められません。自分は何をもって日本人、市民なのか、郷土の歴史を繙(ひもと)き、街に愛着を持ち、誇りを持ち、「愛郷心」を育むことは政治家は勿論、全ての人に必要なことです。

歴史を学ぶことが政治に役立つというよりも、大局的な歴史を学ばずして政治は始められませんよ。

——自身の活動を毎日インタートネット上で公開されていますね。

**鈴木** 365日公私問わず、何をしたかを公表しています。家族からは「うちがどこに行つたか分かつちゃうじゃん!」と少々煙たがられますが、公人である以上、最低限の責務ではないかと考えて実践しています。

地方議員って普段何しているの? とは私自身が疑問を持っていました。極論を言えば、一年間でも議会のある日しか働かなくても良いわけです。

しかし、実際に地方議員になってみると、想像以上のものでした。まず、活動範囲に際限がありません。市政は勿論、国政に対して意見も出せるし、普段は公開してない場所にも視察に行け、それらの蓄積で毎日成長進化させていたれています。

——周囲を説得して政治家になつて後悔がないようでしたか?

**鈴木** 前職と比べて家計を圧迫しているという点で若干の後悔はありますが(笑)が、街の、人の未来のために命が使えることには遣り甲斐しか感じません。(取材:文 稲生永明)

日本を創る 59

明日を創る